

日本の農村社会における「互助」を支える思想に関する一考察

ー産業組合における婦人会に焦点を当ててー

○ 東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科 越前 聡美 (8480)

金子 光一 (東洋大学・1761)

互助社会、協同組合、農村女性

1. 研究目的

日本の社会福祉は、2000（平成 12）年の社会福祉法成立以降、地域福祉の推進が大きな柱となり、地域住民は互いに協力し、福祉サービスを必要とする住民に対して積極的に支援する必要性が強調されてきている。しかしながら、地域における相互の助け合い（互助）は今に始まったものではない。他者に対して働きかける、あるいは他者を必要とする社会的行為は古くから行われてきた。とりわけ日本においては、個人よりも集団（家・家連合、ムラ）を重視する日本固有の社会の論理によって、欧米の個人主義とは異なる集団主義の「共生の論理」が強く作用してきたといえる。

そこでわれわれは、今日まで形を変えながら伝統を引き継いでいる農村における協同組合に着目した。とりわけ、戦前期の産業組合に焦点を当て、そこでの女性の位置づけを検証し、日本の農村社会における互助思想の特質の一端を史的に解明することを目的とする。

2. 研究の視点および方法

まず、農村社会における互助のしくみをいくつかの郷土資料館・古文書館において史資料を収集し明らかにする。とりわけ、産業組合の変遷に着目し、その特質を解明する。次に、農村社会における女性がどのような生活背景を抱き、集落内での生活を行ってきたのかを検証する。分析の対象は昭和初期の第二次世界大戦前に限定する。この時期は文献による理解に加え、ヒアリング調査が可能な時期であり、農村社会の戦前の生活状況の実態が把握できる。それを踏まえて、当時の農村の生活問題どのように潜在化、顕在化されたかを構造的に分析し、顕在化された問題に農村女性がどのように関わってきたのかを解明する。

3. 倫理的配慮

本研究はヒアリング調査を実施する過程で、個人情報等を取り扱う。その際には、人権への配慮を十分に行い、個人情報保護法などの法令を尊重して調査活動を進める。また、日本社会福祉学会の「研究倫理指針」および東洋大学大学院の「ヒト及びヒト由来物質を対象とする研究の倫理に関する規程」を厳守し、実地調査を実施する。

4. 研究結果

考察を通じて、戦前社会的地位が低かった女性が、産業組合婦人会を通して自らの地位向上、生活改善に結びつける活動を行ってきたことが浮き彫りとなった。また同時に、それらは地域状況の違いによって異なる視点が見えてきた。全国的には産業組合婦人会がさまざまな婦人会との関係性に問題を抱えていた一方で、北海道では、地方事情を考慮し、婦人会を適切に組織化する重要性、婦人組織の立場によって自由に活動を行う視点、農村婦人の農家経済人としての参加などが強調されていた。

われわれは、産業組合婦人会の関係史資料およびヒアリング調査を通じて、産業組合婦人会の設立の背景を明らかにし、その機能を分析することにより、日本の農村社会における互助の特質の新たな一端を明らかにした。

5. 考察

農村地域において強力な勢力と影響力を保持していた組織に産業組合がある。本研究では1900（明治33）年に発足し、昭和前期まですべての農家を組合員として取り込むことに成功した産業組合に焦点を当てた。産業組合と農村地域の共同体との関わりについて、従来の研究では、青年団を中心とした産業組合活動の具体的内容が明らかにされてきているが、婦人会組織に関して十分に言及されていない¹。婦人会は、実生活に即した産業組合の価値を強調する言説を、講習会や実演会などによって展開し、農村大衆の組合参加を促したと考えられる。

しかしながら、「東北六懸の消費組合は數に於ても質に於ても未だ見るべきもにあるを聞かず、婦人会組織を持つものは福島、盛岡、鶴岡の三あるのみ」²とあるように、その内容には地域差が生じていたことがわかった。また、各地の産業組合婦人組織には、組合製糸の女工の問題、都市消費組合婦人組織、中央諸機関婦人部との関係など幾多の問題が含まれていた。一方、北海道では、北方資料館において唯一残存していた「産業組合婦人会組織の葉 産業組合中央會北海道支會」³において、先行研究では触れられていない北海道の産業組合の婦人会における方向性が示されていた。

当然のことながら、協同組合は組合員と非組合員との間でメンバーシップの問題がある。非組合員には恩恵を与えないという排他性は、社会的排除を生む大きな要因となる。それは農村の産業組合婦人会においても例外なく当てはまっていた。しかしながら、同じ地域住民が帰属意識や愛着をもちながら、生活を改善するためのコーポレーションに積極的に参加し、推進していた事実とその思想的背景を解明することは重要なことであると考えられる。

¹ 河内聡子(2011)「昭和初期の農村地域における<共同体>の編成とその機能 ―産業組合の事例を中心に」『社会システム研究 22』, 立命館大学.

² 『産業組合 第45巻(昭和12年下)』産業組合中央會.

³ 「産業組合婦人組織の葉 昭和12年」産業組合中央會北海道支會.